

事務事業事後評価シート[平成28年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	農林部農林企画課		■担当係	産業連携推進係
■評価事業名称	北上市産地直売所魅力アップ事業			
■事業開始年度				
■評価事業コード	050100 - 203	■会計区分	一般会計	
■総合計画での位置づけ	■政策	03 ひと・技・資源を組合せ活気うまれるまちづくり		
	■基本施策	03 魅力ある農林業の振興		
	■施策	03 地産地消の推進		
■事業の類型	05 ソフト事業(任意)		■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に特に定めのないもの			
■法令等の名称				
■関連計画の名称				
■事業の目的と概要	産直を魅力ある施設にすることで、お母さんを元気にし、農業と地域の活性化をはかるもの。北上市産地直売所連絡協議会に対し補助金を交付し、産地直売所を核とした農業経営を促進するため、産直を魅力ある施設にする取り組みを支援する。			

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成 28 年度事業計画	平成 28 年度事業量実績
01	北上市産地直売所魅力アップ事業費補助金	北上市産地直売所連絡協議会	○スタンプラリー ○視察交流会 ○農楽工楽クラブ出前産直 ○講演会及び料理発表、昼食会 ○イベント出店・研修会	○スタンプラリー クーポン券引換者:500円券107名、300円券34名、商品当選者31名 ○視察交流会(横手市)74名参加 ○講演会 61名参加 ○イベント出店 5回 ○首都圏PR事業 1産直参加 ○農楽工楽クラブ出前産直 3企業へ2産直が出店 ○会議開催 6回

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	備考
直接事業費			44	20	
人件費	3,130	2,249	3,947	3,553	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	3,130	2,249	3,991	3,573	

4. 評価指標等の状況

事務事業事後評価シート[平成28年度事業]

指標 コード	指標名	25年度	26年度	27年度	28年度	指標の説明
01	イベント開催数	1回	1回	1回		スタンプラリーを実施。21年度は1カ月の実施期間だったが、22年度は3カ月間実施。
02	研修会の開催数	2回	2回	1回		講演会および昼食会と、POPに関する研修会を行った。
03	補助対象産直の売り上げ総額	対前年7%増	対前年6%増			総会資料から(または聞き取り)

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況 ☐ A. 順調 ☒ B. 概ね順調 ☐ C. 遅れている	達成状況の分析 産直の売上総額は、ふるさと納税の影響もあり、伸びてきている。また、スタンプラリーの開催についても定着している。	問題点・課題等 ふるさと納税に依存しない売上の確保、販路の拡大が必要。	
1. 直接的な受益者の範囲 ☐ 不特定多数に及ぶ ☐ 特定されるが多数に及ぶ ☒ 特定少数に限定される	2. 事業廃止の影響 ☐ 大きな不利益やリスクが生じる ☒ ある程度の不利益やリスクが生じる ☐ 不利益やリスクは小さい	3. 国・県・民間との競合関係の有無 ☐ 類似の事業はない ☒ 類似の事業はあるが競合はない ☐ 類似の事業があり競合する	
4. 事業へのニーズの変化 ☐ ニーズが高まっている ☒ ニーズは変わらない ☐ ニーズが低下している又は合致しない	5. 施策の改善需要度(市民意識調査) ☐ 順位が高い ☒ 順位が中程度 ☐ 順位が低い	6. 施策の優先度(市民意識調査) ☐ 順位が高い ☒ 順位が中程度 ☐ 順位が低い	
7. 他市町村に比較しての優位性 ☐ 先進的またはユニークな事業である ☒ 他と同程度の事業である ☐ 遅れている事業である	8. 実施主体の代替性 ☒ 民間委託等の拡充は難しい ☐ 民間委託等の拡充が十分に可能 ☐ 全部委託や実施主体の移行が可能	9. 経済性・効率性の向上 ☐ 今以上の効率化や改善は難しい ☒ 効率化や改善を図ることは十分に可能 ☐ 効率化や改善の余地が大きい	
■事業の見直し方策(評価項目2.4の補足説明含む) 産直スタンプラリーは定着してきているが、開催時期、PR方法を工夫していくと共に、ふるさと納税への商品提供を足掛かりにインターネット販売等にも取り組むよう支援していく。			■今後の方向性 ☐ I. 拡充 ☒ II. 継続 ☐ III. 縮小 ☐ IV. 廃止・休止 ☐ V. 完了